

平成 2 8 年 第 2 3 回

江戸川区教育委員会定例会会議録

日 時：平成 2 8 年 1 2 月 1 3 日（火）午後 4 時

場 所：教育委員会室

教育長	白 井 正三郎
教育長職務代理者	上 野 操
委員	松 原 秀 成
委員	尾 上 郁 子
委員	石 井 正 治

事務局	教育推進課長	柴 田 靖 弘
	学務課長	川 勝 賢 治
	指導室長兼教育研究所長	市 川 茂
	学校施設担当課長	高 橋 和 彦
	統括指導主事	中 山 兼 一

書 記	教育委員会事務局	
	教育推進課庶務係長	岡 田 隆 史
	同 主査	飯 田 常 雄

	<p>開 会 時 刻 午後 4 時</p>
白井教育長	<p>ただいまから、平成 28 年第 23 回教育委員会定例会を開催いたします。 本日は 4 名の方から傍聴の申し出がありますが、よろしいでしょうか。</p> <p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
教 育 長	<p>それでは、傍聴人の方の入室を許可いたします。</p> <p>〔傍聴人入室〕</p>
教 育 長	<p>日程第 1、署名委員を決定します。松原委員と石井委員にお願いします。 続いて日程第 2、教育関係事務報告に参ります。 初めに、教育委員会後援名義使用承認についての報告をお願いします。</p>
柴田教育推進 課長	<p>教育委員会後援名義使用承認についてでございます。</p> <p>お手元に横版で使用申請一覧をおつけいたしております。2 件ございますので、まとめてご説明させていただきます。</p> <p>まず、1 点目でございます。</p> <p>小岩北地区小学校八校卒業記念ナイトウォーク。申請者は北小会でございます。</p> <p>教育委員会の後援名義につきましては、14 回目になります。</p> <p>事業目的であります。夜間 26 キロメートル歩くということで、保護者は子どもの成長を感じ、卒業生はやり遂げた達成感を感じ、また学校保護者、地域の相互理解と啓発を促す機会とするために開催をする予定です。</p> <p>実施日時でございますが、平成 29 年 3 月 25 日、土曜日から、同じく 26 日日曜日の朝までとなっています。</p> <p>実施会場は、小岩小学校からなぎさ公園、そして小岩小に戻るということ でございます。対象ですが、地区内の小学校の卒業生と保護者。経費の徴収 として、一人 500 円、保険料と食料費であります。</p> <p>後援の内容としては、後援名義の使用となっているところです。</p> <p>続きまして、2 点目でございます。江戸川区少年少女合唱団第 30 回定期 演奏会。申請者は、江戸川区少年少女合唱団の担当でございます。今回で、 教育委員会 30 回目の後援名義の貸し出しでございます。</p> <p>同様に、江戸川区に対しましても、後援の申請が出ています。</p>

	<p>事業内容でございますが、合唱団の1年間の練習成果を発表するために、区内小中学校の合唱活動の発展、区の音楽文化の振興に寄与することを目的とするものでございます。実施日時でございますが、29年3月26日、日曜日、午後1時30分からタワーホール船堀、大ホールにて行います。事業の対象は、区内外の児童生徒を対象としております。経費の徴収につきましては、入場料として大人、子ども、それぞれ1,000円ということであり、後援の内容は、名義の使用ということであり、以上であります。</p>
教 育 長	<p>今、ご報告いただきましたが、この件につきまして、2件ございましたが、何かご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。</p>
尾 上 委 員	<p>1件目のナイトウォークなんですけれども、当然昨年もされているわけですが、昨年の参加人数ですね、大人と子どもの参加人数。</p> <p>そして、これは26キロになっていますけども、前回もナイトウォークの話がございましたけど、キロ数というのは明確に覚えていないんですよ。大体この距離というのは、大体平均の距離なんですか。</p>
教育推進課長	<p>昨年3月26日、27日、土日にわたって行いましたけれども、昨年の参加者数は460人でございます。子どもと大人の内訳につきましては、報告があがっておりませんが、今回も予定として、卒業生の6年生が250名、参加者人数の予定でございますが、卒業生の6年生が250名。そして、保護者、ボランティアの方々が100名ということで予定をしています。</p> <p>それから、26キロということですが、ここのところのコースにつきましては、同一コースですずっとやっております。</p>
尾 上 委 員	<p>こちらの地域じゃなくて、他の地域でもございましたよね。距離数がちょっと大体どのくらいだったかなという。</p>
教育推進課長	<p>平井、小松川の小学校のナイトウォーク、こちらは、27キロですね。</p>
尾 上 委 員	<p>ありがとうございます。</p>
教 育 長	<p>このくらいの距離があればですね、尾上委員がお話になった、26キロか7キロくらいを一晩で歩く、同じですよ。</p>

尾上委員	ありがとうございました。
教育長	ほかにご意見はありますか。
石井委員	子どもと、それから保護者の比率についてお伺いしたいんですが、私の記憶ですと、平井地区のほうのナイトウォークは、子どもたちに対して保護者の方の人数のほうが多かったように記憶しておりまして、それはコース取りが全然違うというところもあるんだと思うんですが、一方では、必ずしも子どもさんが参加していても、ご両親どちらも参加されていないという方もいらっしゃるように見えるんですが、保護者の方、6年生の保護者ということで行きますと、どのくらいの方が参加されるんでしょうか。
教育推進課長	先ほど100人と大人の方々の人数を申し上げましたけれども、この数からすれば保護者の方は少ないと思います。ボランティアでやられる方、それから、OBさんのほうが数が多いです。保護者の方のほうが少ないです。
教育長	よろしいですか。 私は、実は去年、このナイトウォーク、小岩北地区の行ったんですけど、やっぱり学校で、今、先ほど言ったとおり、保護者の方が一緒にやるというより、PTAの役員の方たちが一緒に歩いているという形でしたね。だから、それに参加されている親もいるかもしれないし、余り6年生だけの親という感じではなかったという気がしますね。
松原委員	もう一つのほうの定期演奏会ですけれども、毎回参加させていただいて、聞いているんですけれども、本当にレベルが高く、卒団式が行われるんですけども、やっぱり感謝したいのは、ここにかかわっている先生やスタッフの皆さんですね。
教育長	ご意見でよろしいですね。
松原委員	意見です。
上野委員	またナイトウォークなんですが、もう14回目になるんですね。いろいろ子どもの体調その他、事故防止などに気を遣っていただいているようですが、

	<p>とにかく寒いところであるんですね。いろいろあると思うんですね。</p> <p>ちなみに、これまで事故は起きていないんですか。</p>
教育推進課長	<p>これまで事故という報告はお聞きしていません。</p> <p>それから、雨が降って実施したこともあります。</p>
尾上委員	<p>ちょっとよろしいですか。</p> <p>子どもですよ、卒業式を終えていますよね。ということは、基本的には自由参加ということですか。</p>
教育推進課長	<p>おっしゃるとおりだと思います。</p>
尾上委員	<p>自由参加。</p>
教育推進課長	<p>卒業式を終えた後です。</p>
尾上委員	<p>そうですね。でも、ほぼ100%近い子どもたちが参加をしているということでしょうか。</p>
教育推進課長	<p>もちろん当日も校長先生も参加されます。それから、このようにPTAの方々もいらっしゃいます。100%ということにはならないと思いますが、かなり多くのお子さんが参加されております。</p>
尾上委員	<p>ありがとうございます。</p>
教育長	<p>よろしいですか。</p> <p>それでは、他になければ、ただいまの報告事項を了承させていただきます。</p> <p>では、続きまして平成28年度東京都教育委員会「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果についてのご報告をお願いします。</p>
市川指導室長	<p>それでは、資料としてA4横版の二つですね。小学校版と中学校版という形でそれぞれ資料を用意させていただいていますので、ご報告させていただきたいと思います。</p> <p>こちらは、平成28年度児童・生徒の学力向上を図るための調査という名称で、東京都教育委員会が都内全域の小中学生を対象に行っている調査で</p>

ざいます。

まず、概要を申し上げますと、小学校のほうをごらんいただきたいのですが、調査日は今年の7月7日の木曜日でございました。

調査対象は、小学校ですと5年生の児童ということになります。

後ほどご紹介する中学生については、2年生の生徒ということになります。

区内での実施校数については、小中学校それぞれ全校でございます。

それから、調査目的でございますけれども、そこに記させていただいておるとおり、大きな狙いとしては、子どもたちの学力の定着状況を把握するというのがあります。それを教育施策に生かすという点がございます。

それから、こちらも国の学力調査と同様に、子どもたち一人ひとりの学力の状況を見て、それを子どもたちに返すという形でございますので、児童・生徒一人ひとりの学力の向上ということも調査の目的でございます。

調査内容ですが、小学校ですと教科に関する教科として国語、社会、算数、理科の4教科でございます。先立ってご報告させていただいた国の調査の場合は、国語と算数でございました。

後ほどご紹介する中学校になりますと、これに算数が数学に変わるということと、あとは英語が加わります。

そのほか、国の調査と同様に、子どもたちに対する意識調査と学校に対する取り組み状況等の調査も同時に行っております。

それでは、概要をご説明させていただきます。

まず、小学校のほうの1ページをごらんいただきたいと思います。

ここから、国語から順にご紹介させていただきますけれども、これは区全体の正答数の状況、それから平均正答率等の状況でございます。まず、正答数分布をごらんいただきたいんですが、国語につきましては、右側のほうですね。18問、19問、20問といった正答率が高い子どもたちの割合が若干都平均より低いような状況でございます。

ちなみに、この調査ですと、東京都全体の平均正答数は、約14.8問でございます。ですので、15問以上の子どもたちの割合が多くなると、当然、都の平均正答率を上回るというような状況になります。ですから、本区の課題としましては、右側15問以上の子どもたちの比率が、都に追いつく、それから都を超えるといったところが大きな課題ということになります。その分、14問以下の子どもたちの割合は、少しずつではあるんですが、東京都の割合を超えているような状況でございます。

それから、その下ですね、観点別の正答率を示しています。こちらについては、国語の場合は、残念ながら都平均を全て下回っているような状況でござ

ざいます。教科全体の平均正答率も、このページの右のほうに示しましたけれども、東京都の平均を下回っているといったような状況でございます。

続きまして、1枚めくっていただいて、2ページになります。社会科ですが、こちらも国語と同じような状況が見られます。この社会科の正答数ですと、東京都平均の正答数が16.7問でございます。ですので、17問以上正答している割合を比べますと、都よりも下回っているような状況でございます。その分、16問以下が若干多いというような状況でございます。これがそれぞれの観点別の正答率であるとか、教科としての右側のほうに示しております平均正答率に影響するということでございます。

小学校につきましては、今、国語、社会をご紹介したんですが、同様の傾向が算数、それから理科でも見られます。特に顕著なのが、3ページに示しました算数でございます。こちらは、正答数分布で申し上げますと、都の平均が19.4問でございます。19.4問正答が平均ですけれども、特に顕著なのが22問以上正答した児童の割合が、かなり都と比べても差が出てしまっているような状況でございます。その分、19問以下の割合が都を超えているところがかかり多いです。ですから、この分布が全体的に左寄りになってしまっているところが大きな課題として、さまざまな取り組みで、これをグラフの盛り上がっている部分を右に持っていくというのが課題というふうに思います。

同様の傾向が理科でも見られます。ちょっと説明は割愛させていただきますけれども、小学校は4教科とも同じような傾向が見られるといったところでございます。

それから、5ページ以降は、各教科の代表的な問題、特に課題が見られた問題を抜粋して掲載させていただいております。時間の関係で、小学校では5ページの国語について説明させていただきたいと思います。

この5ページに示しました大問の6番の問題ですが、四角6番の問題ですが、特にこれは全都的な課題でもあるんですが、大きな課題が見られるのが(2)。こちらは、「めだかの赤ちゃんの不思議なところは、卵から孵った後しばらく餌を」というふうに四角になっているところに当てはまる言葉を自分で考えて入れるといった問題です。もとの文章は、「しばらく餌を食べない」という意味なんですが、これを「不思議なところが」に合うように書き直せという意味になります。ですので、正答例としては、例えば「しばらく餌を食べないところだ」とか、「食べないところである」、「食べないことが」、そういったものになれば正答になるんですが、正答率で申し上げますと、本区の子どもたちは12.8%の正答率で終わってしまいました。

東京都平均が16.8%ですので、東京都全体としての課題ではあるんですが、その中でも本区の子どもたちは特にそういった書く問題にかなり課題が見られるということでございます。

そのほか、次のページ以降は、社会、算数、理科の具体的な問題を挙げさせていただきますので、後ほどごらんいただければというふうに思います。

続きまして、もう一部のほうですね。中学校のほうをお願いしたいと思います。表紙の概要については、先ほどご紹介しましたので、割愛させていただきますと思います。中学校の1ページ以降の教科ごとの正答数の状況、それから平均正答率等ですけれども、小学校と同様な傾向が見られる教科と、ちょっと違う傾向が見られる教科がありました。

まず、国語、それから数学になりますけれども、1ページ目の国語をごらんいただきたいと思います。こちらも小学校と同様に、グラフで言うと右側の割合が都平均より低いような状況でございます。ちなみにこの都平均正答数は17.1問ですので、18問以上のところが、都を超えている分部も若干ありますけれども、全体として都を下回っているような状況です。ですので、こちらも小学校と同様に、グラフの盛り上がり方が若干左寄りになっているところがございます。

続きまして、3ページの数学。これも小学校と同様の状況でございます。問題数で言いますと、都の平均が16.4問の正答ですので、それを上回る特に22問以上の割合が、都とのかなり差が見られています。それから若干違う傾向が見られるのが、1ページ戻っていただいて、2ページ目の社会科です。これは、右側のほうの例えば21問とか、24問であるとか、27問であるとか、少し都との差が見られるところもあるんですけれども、全体的には都の平均正答数が16.8問なんですけど、この16.8問を上回る正答数の子どもたちが、都の割合を超えている部分が幾つかあります。ですので、先ほど申し上げた国語や数学に比べますと、都との差がそれほど開いていないような状況があります。ですので、この社会については、一番右側の平均正答率をごらんいただくと、若干都の平均は下回っていますけれども、国語、それから数学に比べますと、差が小さくなっているような状況でございます。さらに、国語、数学と違う傾向が見られますのは、4ページの理科でございます。

こちらは、都の平均が14.4問の平均正答数でございました。ですので、15問以上のところを特にごらんいただきたいんですが、15問を正答した生徒、それから19問正答した生徒については、都の割合を下回っている状

況ですが、それ以外のところはほとんど一緒か、若干超えている部分もあります。ですので、この理科に関しては、右側の平均正答率をごらんいただきたいんですが、教科の観点といった問題の種類のところでは、東京都の平均を上回っているというような状況が見られます。

残念ながら、その右側の教科の読み解く力といった種類の問題。これは、どちらかというとなりて応用的な問題ですけれども、こちらに関しては若干下回っていますけれども、理科に関しては全体的にほぼ都の平均と同じような状況が見られるとってよろしいかというふうに思います。

最後、5ページ目の英語ですが、これも残念ながら国語、数学と同様な傾向が見られます。

6ページ以降は小学校と同様に代表的な問題を掲載しているんですが、ここでは10ページの英語の問題をちょっとご紹介させていただきたいなというふうに思います。英語の問題は、大きく二つ掲載させていただいているところなんですが、まず、左側ですね。(1) g o、(2) e a tとか、そういったものを文が正しくなるように直すという問題でございます。

こちらにつきましては、(1) g oを過去形のw e n tに変えるというものは、7割以上の子どもたちができる。しかしながら、都の平均正答数から比べますとマイナス5ポイントなので、差があります。

さらに、深刻なのが、(2) e a tを現在進行形のe a t i n gに変えるんですね。こちらについては、都の平均も27.6%ですが、これをさらに下回る21.8%となっております。

以上でございます。

教 育 長

今、ご報告がありましたけれども、この件に関しまして、ご質問、ご意見がございましたら、よろしくお願いいいたします。

松 原 委 員

小中と数値で見ると、両方1ページなんですけれども、平均正答率の小学校で見ますと、評価の観点で2.1ポイント低いんですね。それから、読み解く力が3.8ポイント。

それから、中学校のほうは教科のほうは1.7ポイント、読み解く力が1.6ポイントということで、ちょっと小学校が厳しいのかなということが言えるんだろうと思うんですね。

多分、これを見て、算数、それで小学校は理科もちょっと厳しいですね。中学校のほうは、理科はまあまあですけれども、数学と英語ですかね。やっぱり数・理というのが、本区だけでなく、学習指導要領でも重点項目にな

	<p>っているんですけども、お尋ねしたいのは今後のことなんですけれども、各校でこういった最終ページに書いてあるように、もちろんやっているとは思いますが、ホームページを見ても、各校で具体的な取り組みが出ているんですけど、こういう特に算数、数学ですね。英語もそうですけども、いわゆる小中の研究会がありますよね。そういう研究会のほうで検討するような委員会というのですかね。そういったものはどのように考えておられるのでしょうか。</p>
指導室長	<p>そうですね。特に算数、数学、それから理科の研究会だけという話ではもちろんないんですけども、それぞれの教科の研究会だけではなくて、もちろん各学校で十分この結果を受けとめていただいて、それぞれどういった観点で子どもたちの指導を充実させなきゃいけないのかというのを、しっかりと見きわめていただく必要はあるのかなというふうに思います。</p> <p>ですので、例えば指導主事が研究会や学校にお邪魔した際には、やっぱりこういったデータをお持ちして、具体的にこういったところが課題だよという示し方をしていく必要があるのかなというふうに思っています。</p> <p>ですので、改めて理科、算数に特化した動きということではないんですけども、ただ、この結果については、指導室としても重く受けとめて、学校現場に対して働きかけしていかなきゃいけないというふうに思うところがございます。</p>
教 育 長	<p>では、他にいかがでしょうか。</p>
石 井 委 員	<p>これからの課題というようなところに、最終的には絡めてお伺いしたいのですが、まずお聞きしたいことが、それぞれ教科の観点と教科の読み解く力というのが下に棒グラフでまとまっておりますが、これはそれぞれの学校に対しても同じ棒グラフは出ているのでしょうか。</p>
指 導 室 長	<p>棒グラフという形だけではないんですけども、各学校にはそれぞれ問題ごとの正答率、それから、観点別の平均正答率、こういったものをきちんと数値では示していますので、ですから、こういったものを各学校のデータも、当然各学校はそれを持って分析していただくというような流れでございます。</p>
石 井 委 員	<p>引き続き、自分だったらどういうふうに勉強するかということで考える</p>

んですが、教科の観点でこういうようなものをもらったといたしますと、例えば中学校の国語でいきますと、自分はこういう評価をもらっているとしまして、関心はもうよさそうだと。そうすると、書く力を上げなきゃいけない。でも、書く力というのは、言ってみれば読み解いて、自分の頭の中で考えて、文章を組み立てて最終的に出す、そういう総合力なので、総合力が一番よくなるのは当然で、その総合力のところから入っていこうとするのはなかなか難しいことになってくるから、そうすると読むとか、言語とか、聞くとか、そういうのをやりつつ、書く力をアップさせるのかなというような分析をする。

言いたいことは、このでこぼここのところをできるだけ上に持っていくような、そういうことをするのが効果的だろうなど。もし、これが自分に来たときは分析するんですが、そういうようなことをそれぞれの学校でやっていただいて、効果的な、ここが効果的だろうというような、かなり個別具体的なところから入っていただくのがいいかなと思うんですが、そこら辺は指導室としてどうお考えでしょう。

指導室長

各学校で、こういった結果を踏まえて、学力向上のための推進プランといったものをつくっていただいているんですけども、その中でより具体的に、例えば、国語の全体の平均正答率がどうだったということよりも、やっぱり今、ご指摘いただいたように、観点別に書く力が足りないとか、理科で言うと観察するとか表現する力が足りないとか、そういったところで、まずは先生たち一人ひとりが、自分の学校ではこういう力を高めなきゃいけないんだ、こういうところが課題なんだというのを認識していただくのがまず第一歩かなというふうに思っています。

ですので、今後で申し上げますと、例えば、こういったような状況が自分の学校でも見られた場合は、やはり書くという活動とか、そういったところを重視して、今までの指導方法でよかったのかという検証はしていただく必要があるのかなというふうに思います。

尾上委員

よく学校から、学校だよりというのが私の手元にも届くんですね。そのときにも、学力テストの評価というのを、都、区、学校という形で明確に出して、やはり自校の課題はこういう点と思うという形で、結構皆さんきちんとされているなと思っております。

ですから、特にまたこういう形で、本当に今、石井先生がおっしゃったように、足りない部分に対して、どう本当に力を入れていくかということがよ

松原委員	<p>り大事だと思しますので、本当に全体的に評価を見まして、もうちょっと頑張ってもらいたいなって正直思います。</p> <p>ですから、本当に小学校が基礎ですので、きっと小学校はもう少し力を入れながら中学への学力向上というのが大切なのかなと思いますけども、細かくそのようなご指導をしていただきながら、期待をしていきたいと、そんなふうに思っております。よろしくをお願いします。</p> <p>意見なんですけど、毎回本当に学校だよりね、送られたところは、今、先生がおっしゃったように、全部、都、区、それから本校も出ていて、そういうようなグループを、全員が出しているわけじゃないと思うんですよ。そういう意識で現場のほうでやっていただくと、ちょっと違うのかなと思いました。</p>
指導室長	<p>実は、先般の第4回の定例区議会でも、その関連の話題が出ていまして、改めてこういった分析結果、それぞれの学校の分析結果については、今までも、今、お話があったように学校だよりであるとか、あとはホームページとかでいろいろ掲載していたんですけども、一部の学校で「わかりにくい」とか、そういったご指摘もいただいておりますので、改めて私どものほうから全校にわかりやすい形でホームページに掲載していただくように確認くださいということで、周知徹底を図りたいなというところです。</p> <p>ですので、一般の区民の方も含めて、それぞれの学校がこういったところで頑張っているとか、これからどういうことをやろうとしているのかというのを、ぜひ発信していただきたいなと思って、今、学校に投げかけ、再度投げかけしようとしているところです。</p>
教育長	<p>他によろしいでしょうか。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
教育長	<p>それでは、他になければ、ただいまの報告事項を了承させていただきます。続いて、いじめ電話相談について報告をお願いします。</p>
指導室長	<p>それでは、11月分のいじめ電話相談について、ご報告させていただきます。こちら、資料をごらんいただきたいんですけども、11月については1件、1回でございます。</p>

<p>教 育 長</p>	<p>対象となる年齢等は、小学校6年生の女子児童でございます。</p> <p>実際に相談された方は、相談の内訳の二つ目をごらんいただきたいんですが、お母様でございます。具体的な内容としては、主訴のところをごらんいただきたいんですが、直接の言葉というところでございます。</p> <p>概要は、これは女子児童の友達関係がこじれまして、そこで悪口を言われたといった内容です。</p> <p>以上、1件のみでございます。</p>
<p>石 井 委 員</p>	<p>この件に関しまして、ご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。</p>
<p>指 導 室 長</p>	<p>単純な表のつくり込みにかかわることなんですけれども、一番下のところの言葉、直接というところに「1」と入っていますけれども、そうすると、その他のところにも「1」が入ってしかるべきかななんて思うんですが。</p>
<p>指 導 室 長</p>	<p>そうですね。主訴って、本来の意味からいうと1番の本体が主訴なんです。ここのただし書きですと複数にわたる場合もあるために書いてありますので、そうですね、その他という分類も当然入れさせていただいたほうがよろしいかなと思いますので、ちょっと今後、担当と理解を図りたいと思います。ありがとうございます。</p>
<p>石 井 委 員</p>	<p>お願いします。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>この件については、今、お話しいただいたようなことなんですけれども、よろしいですか。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ないようでございますので、ただいまのご報告を了承させていただきます。</p> <p>以上をもちまして、平成28年第23回教育委員会定例会を終了いたします。皆さん、お疲れさまでした。</p> <p>閉会時刻 午後4時50分</p>